

解禁！ 公式靖国参拝じゃ！

本日は晴天ない

日焼け者が続出...

靖国神社を1日かけて
じっくり散策しました

■戦争について思うこと。

先日、祖母と一緒に地元の護国神社に行って参りました。祖母は当時を思い出したのか、当時習っていた歌や、全文読めば30秒くらいする「教育勅語」をスラスラと言ってくれたりと、御霊に向かって深々と頭を下げていました。その姿を見て、改めて「戦争は起こしてはならない」と思いました。

ずっと遠慮してたけど、
やっぱり、靖国は
ちゃんと学ぼうや！

どしーん！と
高さ25メートル
重さ100トンじゃ！

天才の戦略家
長州藩士
大村益次郎像



日陰を探すのがひと苦勞

↑恒例の新聞アウトプットは、行きます。
夏場は大変苦痛…。汗ダラダラ…。



ここが「神門」

↑双方に掲げられた菊の御紋章。なんと
直径1.5メートルあるそうです。

↑土曜の午後、2期生と社会人の有志たち約25名が靖国神社境内に集まった。

理事長自らが本日のナビゲター



パール判事を前に、
つい暑さを忘れ、
トークに熱がこもる

この日、気温は30度を超える…



しかし、まいったな…
日照りが坊主頭を直撃かよ…

<講義アウトプット・グッドチョイス>
●我が国最初の招魂社が山口県下関の桜山にあり、それも高杉晋作が作ったということを教えていただいた。
●神主さんが「被詞」を唱えられた時は、背筋が伸びる想いでした。意味は分からなくても心の中で追って眩き、五感で感じることで心に至る。だが、きっと昔は民衆も意味を理解し聞いていたんだと思うと、やはり私も覚えて引き継いでいかなければならないのか、と思いました。「御霊への想う気持ちが作法より何より大切」と神主さんに教えて頂きました。

日本人としてちゃんと向き合うために、まず現地に行くことから。

「靖国神社」は、毎年、日本政府公式参拝の有無で、国内・国外から賛否が問われる。「靖国問題」とは一体何なのか？ 賛否をとやかく言うならまだしも、そもそも「靖国って何？」という学生が増えれば、これは日本人としてあまりにも悲しいこと。それに歯止めをかけるべく、東京にいるのだから、「まずは現地に行こう」と、この度、日本ベンチャー大学初となる「公式講義」を行った。講師は山近義幸理事長代行自らが現地で解説をする。暑い天候の中、山近理事長代行のトークは、誰も止めることが出来ず、どんどんヒートアップしていった…。しかし、熱中症は免れた。ふう〜。

←東京裁判で唯一日本を無罪と主張した
パール判事。妙に熱がこもる山近理事長

本殿で玉ぐし
本殿の中は撮影禁止！
ガードマンに
追い払われました



こんなの見つけたっ！①



境内最奥にある相撲場
↑奉納相撲が行われる

こんなの見つけたっ！②



↑江戸の三大道場、練兵館跡。
桂川五郎、高杉晋作など長州藩士はここで剣術を学んだ



目が…いや、顔が
シャキーン！

遊就館の館内にゼロ戦が展示されている。この前に立つと不思議と顔つきも真剣になってしまう。やはり我々には、日本人のDNA、そして根っからの日本人のアイデンティティが染み込んでいる証拠なのかもしれない。